



<N0204>

ツタ（蔦）

ツタと言えば厚木市文化会館の外壁を覆っていることから厚木市民には馴染みのあるようだ。樹木や石垣、壁などを登るつる植物である。巻きつくものもない垂直な壁をどのようにして登っているのか、また、壁に体をどのように固着させているか、近くに寄って観察してみたい。

茎の節の葉の付く位置の反対側から巻きひげが伸びるが、伸びた巻きひげの先端が変形して吸盤状となって壁に固着しているのだ。なお、実のなる房も同じ位置から出ていることから、巻きひげは吸盤や実の付く房など役割に応じて変形していることがわかる。ツタの紅葉は鮮やかな赤で、晩秋を彩る風物詩でもある。ブドウ科の落葉つる植物。



<N0205>

ヒラタケ (平茸)

秋の味覚にキノコがある。ヒラタケは晩秋から初冬にかけてエノキなどの朽ち木に発生するキノコである。ヒラタケは汁物、鍋物、炊き込みご飯、天ぷら、うどんの具などさまざまな料理に利用できる。店頭にはおがくずを利用した菌床栽培品が流通してい

る。

天然ヒラタケは香りが良く、食感も良く、写真のように大きな株で発生することが普通で、見つけた時のうれしさはこの上ないものである。

ヒラタケは名前の通りカサが平たいに重なり合っていて軸は短いのが特徴。毒キノコのツキヨダケに似ているため採集には注意が必要。目利きの人に採集物をもって判定してもらうのがよい。